おこのみっくす編集部体験ルポ "オリーブのはばたき"に続け

被災地に新しい種を蒔こう!! 「農家との交流・援農ツアー」

◀天ぷらバスでいわきへ、廃食油をリサイクルした燃料で行くエコツアー

3月3日朝8時半、東京駅を出発したバスは一路福島県いわき市へ。

被災地を知り、農業ボランティアで支援しようという「援農体験スタディツアー」には首都圏から23人が参加した。同行したおこのみっくすの2日間のレポート。縁が輪市のシンポジウム（P15参照）にご登壇いただいた「ふくしま支援・人と文化ネットワーク」理事の郡司真弓さんが企画したもの。

12時、ツアーの共同主催者でもある地元のNPO法人ザ・ピープルが運営する「いわき市小名浜地区交流サロン」に到着。代表の吉田恵美子さんから震災支援の現状を伺い、被災した女性たちが始めた「母ちゃん元気プロジェクト」のお弁当をいただく（おこのみっくすでは中野の皆様からお預かりした「チャリおこ／縁が輪市」での寄付の一部を昨年3回ザ・ピープルに支援金としてお渡ししています）。

そして、被災地域を回るスタディツアーへ。車中ではガイド役のNPO法人ふよう土2100理事長の里見喜生さん、事務局長の大澤康泰さんからいわき市の状況を聞き、そして行く先々で参加者は津波の爪痕に茫然とし、当時の話に胸を痛め、それでも前向きに笑顔を見せる住民の方々の話に聞き入った。プレハブ作りでようやく再開した浜風商店街での「こうして来てくれる事が何よりも嬉しい。元気をもらいます」。という商店主・遠藤さとしさんの言葉が印象に残る。再開に向け工事が続く湯本温泉の古滝屋に特別に宿泊。温泉を楽しみ初日が終わった。

◀遠野町は伝統産業が残る小さな農山村

2日目はいよいよツアー最大の目的「援農」体験。お邪魔したのはいわき市遠野町の折笠農園さん。春の穏やかな日差しの中、指導を受けながら参加者も声を掛け合いながら農作業。素人も23人も集まるとそれなりの戦力になり、農家の方いわく「3日はかかる作業」を3時間で終えると、集会所には地区のお母さん達の手作り料理の数々が!!

昼食の後は地元の方との交流会、語り合い、笑いあい、楽しい時間はあっと言う間に過ぎた。最後に「いわきオーガニックコットンプロジェクト」の予定地に立ち寄り「ここからいわきの復興が始まる!」とザ・ピープルの吉田さん、「Made in いわきのコットンを世界に!」と㈱アバンティ代表の渡邊智恵子さん、お二人の熱い言葉に一同感動していわきでの2日間は終わった。

参加者からは「とても楽しかった」、「是非また来たい」「逆に元気をもらった」などの声が。楽しめる交流型ボランティア「援農ツアー」はシニア世代にもできる支援の新しい柱になると確信した週末だった。

（東北支援担当：黒柳英哲）

▲ビニールハウスでの作物は持ち帰りもOK!

◀農作業が終わり、折笠農園の皆さんと記念撮影

▲3.11直後の壮絶な救出活動を地元消防団の遠藤さんが語り、言葉を失う一同

▲中学校の校庭には1年たっても残るがれきの山

▲「福島から世界へ」夢は広がる。コットンプロジェクト予定地にて

「いわきオーガニックコットンプロジェクト」とは

オーガニックコットンを育てて製品を作り、雇用創出を目指す。「いわきオリーブプロジェクト」（P16参照）とならび、いわき農業の復興の柱と期待されるプロジェクト。NPO法人ザ・ピープルと日本のオーガニックコットンの先駆者㈱アバンティがいわきの農家・市民とともに取り組み、今春種をまき秋の収穫を目指す。

おこのみっくすでは、中野といわきを結ぶ「オリーブのはばたき」交流プロジェクトとあわせてこれからも注目・応援していきます!

※オーガニックコットンとは、無農薬・有機栽培の綿花のこと

ザ・ピープル吉田さんからのメッセージ

畑作り、草取りなどたくさんの人手が必要です。中野の若い方もシニアの方も、いわきにボランティアに来て下さい!!